

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3292200049		
法人名	社会福祉法人 高田会		
事業所名	隠岐の島町認知症高齢者グループホームみのりの家		
所在地	島根県隠岐郡隠岐の島町都万2472-3		
自己評価作成日	令和4年12月10日	評価結果市町村受理日	令和5年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和5年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人のペースに合わせて、生き生きと安心して暮らせる様支援する。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ゆっくり連れだって地域の中でいきいきと暮らせる支援をします」の理念を掲げ、「この施設で良かった」と思ってもらえるように取り組んでいる。コロナ禍で感染対策の為いろいろな制限があり利用者や職員に不安やストレスを与えているが、職員は安全確認をしての外出や施設内での行事の工夫をし利用者の心身の安定に努めると共に、家族への連絡も出来るだけ些細な部分も伝えるように努め、電話での声掛け等の協力をしてもらいながら一緒に今を乗り越える支援に取り組んでいる。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者さんや、家族さんが目に付く廊下に貼り出しているいつでも見れる様にしている。又、介護の原点は「理念」であり、常に意識を持って介護をしている。	迷いや不安な時には原点に立ち返り理念を意識しながらケアに向かうよう心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍でなかなか思うように出来ていない。	コロナ禍で制限があるが、以前から交流のあった婦人会から演芸大会のビデオの寄贈がありみんなで一緒に見て楽しんだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議を行い、意見交換しているがコロナ禍で面会禁止や事業所内に外部からの立ち入り禁止もあり資料配布のみで行う事も何度かあり。	コロナの感染状況を見ながら開催方法を検討し実施している。報告書に対して委員からの意見はない。	運営推進会議の委員さんから意見を出してもらえる工夫をしながら関係作りを行い取り組んでいかれることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加している方より、コロナの感染状況やワクチン接種の情報・防災の情報を知る事が出来た。	運営推進会議を通してコロナ関連や防災の情報提供を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回の身体拘束の会議に出席して、身体拘束になっていないか、業務の確認を行っている。	法人の身体拘束委員会に出席している。職員には資料にて伝達、報告、確認をしている。勉強会はコロナのため中止している。	コロナ禍で研修の機会が減っているので、さらに日々ケアの振り返りを行い全職員の理解と意識の向上を目指していただきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回の虐待防止の会議に参加し、虐待になっていないか業務の確認を行っている。高齢者の虐待防止の研修会に参加し、日々の業務実践を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍で研修会などに参加できていない。又現在制度の利用は無い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に、利用者家族に説明し理解していただき、署名捺印してもらう。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所契約時、重要事項説明書に苦情の受付がある事説明している。家族の面会時や電話があった時は、日頃の様子を伝え、意見要望等はないか尋ねて、相談しながら支援する。	コロナ禍で面会や外出は制限せざるを得ず、家族や親戚とも自由に行き来出来ない状況がある。職員は利用者と家族の意見、要望をくみ取り安心して過ごしてもらえるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会やミーティングで提案・検討し、実践している。	職員会議、ミーティング時に話し合える時間を設けている。ケアに関して迷いや心配事があれば共有し取り組んでいる。	コロナ禍や多忙な業務の中、今だからこそ、どんなグループホームを目指したいか、ゆっくり皆さんで話し合う時間を持たれる事を願います。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と面談し、勤務の状況や職場の様子を一人一人から聞いて、事業所が継続出来る様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で施設外の研修等には参加できていない。施設内での研修には可能な限り参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年は1回交流会が行われたが、今年度は出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申し込み時、本人の要望や不安な事に対して家族さんを含めて一緒に考え対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時や、入所後も本人の要望や様子を伝え、困っている事への対応や家族さんの要望も聞き入れ、検討し相談しながら対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望時に、本人とご家族から要望を聞き取る。グループホーム利用で他のサービスは利用できない事も説明する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の要望を聞き入れ、自室のモップかけや昼食の盛り付けなど職員と一緒にする。難聴の人などにはゆっくり声掛けし、必要に応じて紙に書いて伝え理解してもらう。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日頃の様子を伝えている。又遠方の家族さんとは電話やメールでのやりとりで必要な物の購入や要望に対応している。必要に応じて一緒に外出の機会を作ってもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で出来ていない。	利用者の希望があれば家族、親戚などに連絡し相談して対応している。面会は感染状況を見ながら対応を検討し支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が声掛けし、利用者同士で会話しながら洗濯物たたみをしてもらっている。知人の利用者同士個室でお茶を飲んだりして過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍で難しが、特養に入所された利用者の訪問し、様子を見たり聞いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の為、意思疎通が困難な利用者には一緒に居る時間を持ち、同じ訴えにでも耳を傾け家族さんにも協力してもらい、電話で話をしたり面会に来てもらっている。また、一緒に外出の機会を持ってもらう。	表情や仕草、また困難な場合も時間をかけて今の思いを聞くように努めている。家族の協力も得ながら少しでも気持ち良く過ごしてもらえるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅からの情報提供書や、家族さんからの意見を聞き取り、サービスの提供に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、精神状態や身体の動きも違うので様子観察し職員間で状態把握し見守りしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員と話し合い、ケアプラン作成し職員会やミーティングで検討・評価し見直ししている。本人の好きな事や得意な事を取り入れ、また担当職員からの意見や要望なども取り入れていきたい。	毎月会議で検討し評価、見直しをしている。利用者の状況の変化、家族の要望等があれば柔軟に追加、修正をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を、業務日誌や個人記録に記録し申し送りし、職員間で情報共有しているが、内容が不十分や把握できていない事もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で難しいが、島内にいる家族には訪問以来し状況説明している。島外におられる家族さんには電話やメール等で説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍前はボランティアの方が来られ、一緒に民謡を唄ったり歌に合わせて手踊りされていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	都万診療所へ月1回の受診対応。隠岐病院受診の方も必要に応じて家族さんへの協力依頼をして受診をしている。救急時には救急車を要請し、隠岐病院受診している。	診療所、協力病院への受診対応は職員が行っている。専門科の病院へは家族対応としているが要請があれば支援することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師はいません。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診時、本人の状態やバイタル・状態の変化など詳しく説明し情報提供している。救急要請時には情報提供の用紙に記入し救急隊に渡している。退院前にはカンファレンス参加し、本人の情報を得る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病院・家族との話し合いを重ね、必要に応じて特養などの施設の申し込みを行ってもらっている。看護師が居ない為、看取り対応できない。	現在は看取りは出来ない事を説明してある。終末期には医師、家族と話し合いながら次の対応を検討し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設研修で年1回の救急救命の講習あり、可能な限り参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練を年2回行っている。	消防署の指導での防火訓練を実施している。自然災害については町、地域の情報を常に確認すると共に本部と協力して対応し避難に繋げている。地域との協力関係はコロナのため出来ていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に出来る事をしてもらう。必要に応じて筆談や耳元での会話などしている。	利用者の過ごしてきた環境や性格を把握し、職員間で共有して声掛けや会話に配慮しながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コロナ禍で思うように出来ない事もあり、また認知症の為、意志疎通困難もあり本人の思いをくみ取る事が難しい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	広告でのゴミ箱作りや、塗り絵など又自分のノートに好きな事を書き込んだりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カット希望の利用者には地域の美容院への予約を取り送迎している。化粧水や乳液を使っている方には必要な物の購入を家族さんへ依頼して買って来てもらう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日に食べたいものの希望や季節の物を献立に取り入れている。職員も一緒に同じ食事を食べ会話している。	利用者の好みや希望を把握している。、誕生日や行事時には季節の食材を取り入れ提供している。出来る人には野菜の下ごしらえや盛り付け、配膳下膳等無理のない範囲で参加してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分量をチェックし、食事量の少ない人には間食(パンやお菓子)など適宜対応する。水分にムセのある人にはトロミ剤の使用もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けと出来ない人には義歯洗浄、嗽の介助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを排泄チェック表をみて確認し、介助に必要な人は定時と随時でトイレ誘導を行う。日中・夜間と使用するオムツ・パット類を一人一人状態に合わせて使い分けている。出来るだけ自分でしてもらい見守り、介助する。	自立した排泄に向けてチェック表を把握し声掛け、見守りながら支援に努めている。夜間には利用者の状態によりトイレを利用して	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促し、お茶が飲めない人にはお茶ゼリーやトロミ剤使用。ヨーグルトや乳製品の摂取。排便困難の人には医師と相談し、下剤の処方をしてもらう。毎朝のラジオ体操と居室の掃除など身体を動かしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴の実施。排便等の汚染時には適宜シャワー浴の対応し清潔保持している。又、入浴に対して拒否強い場合は、声掛ける職員が交代して対応したり、日にちの変更などして入浴してもらう。	週2回の入浴であるが状況に応じて柔軟に対応している。利用者の体調を観察しながら声掛けしゆっくりと快適な入浴になるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、広告紙や新聞のごみ入れを折ってもらったり、塗り絵・ゲームなどに誘導している。又、空調により、温度湿度の調節を行っている。衣類・寝具等の調節もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に処方箋をはさんであり、目を通して確認している。処方変更時にはミーティング帳に記載して確認している。朝・昼・夕・眠前のトレイに1週間分の薬を入れ、服薬時には再度名前を確認しながら服薬介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎朝の居室の掃除や、洗濯物たたみなどしてもらっている。コーヒーや・ヤクルト・牛乳など希望の物を出している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で思うように出来ないが、感染状況を見て天気の良い時は施設周辺や外気浴を行っている。家族さんに協力してもらい、一緒に買い物に出かけたりしてもらっている。	行事やイベント等、多数の人のいる場所への外出は出来ないが、テラスや庭先での外気浴や感染対策を取りながら施設周囲を散歩したり、受診に合わせ花見等している。家族の協力があれば近くの店で買い物をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は施設と家族で管理している。本人の要望などあれば、家族さんと協力し買い物などしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話をもっている人は、自分で家族さんへ電話している。そうでない人は連絡してほしい要望のある時は職員が電話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅から持ってきたぬいぐるみや写真などを飾っている。自分でお茶を入れて好きな時に飲んでいる。食堂ホールでは自席でゆったりとテレビを見たり、書き物をしている。トイレには消臭剤を置き、匂いに気を付けている。	利用者と職員で季節に合わせて折り紙等でひな祭り、七夕、角松や獅子舞等の飾り付けをしている。普段は自分の好きな場所でTVを見たり、作業や読書したり等、ゆっくりと過ごしてもらえるよう環境作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各個人の椅子に座り、書き物をしたりテレビを見たり、広告紙でゴミ箱作りや洗濯物たたみなどしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたベットや布団・タンスを居室に入れ、本人と担当が相談しながら設置や対応している。季節に合わせて衣類や寝具などの交換を家族さんと相談しながら対応している。	利用者、家族と相談しながら使い慣れた家具、寝具、衣類や好きな雑誌等を持って来てもらい、安全で安心に過ごしてもらえる居室作り努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関・トイレ・浴室はバリアフリーになっており、安全で動きやすくなっている。トイレでの衣類の上げ下げ、入浴時の衣類の着脱など声掛け・見守りしている。		